

2025 年度第 1 回町田市食育推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2025 年 8 月 6 日（水） 14：00～15：50	
開催場所	町田市保健所中町庁舎 1 階講堂	
議題	1 開 会 2 保健所長挨拶 3 委員紹介 4 報告 （1）2025 年度第 1 回町田市保健所運営協議会報告 【資料 1】 （2）2024 年度の食育取組報告 【資料 2-1～3】【資料 3】【資料 4】 （3）東京家政学院大学と町田市との食育推進に関する連携協定【資料 5】 5 議事 （1）今後の食育推進の取組 【資料 2-2～3】【資料 3】 （2）まちだ食育すごろく 【資料 6-1～3】 6 その他（連絡事項等） 7 閉会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	調所 勝弘 （学識経験者） 千葉 勢子 （町田市法人立保育園協会） 神蔵 宗 （町田市私立幼稚園協会） 岩崎 直美 （町田市公立小学校校長会） 藤井 朱世 （町田市公立中学校校長会） 米澤 加代 （市内大学教員） 山下 豊一 （町田市農業協同組合） 高尾 花 （町田集団給食研究会） 亀田 文生 （町田市観光コンベンション協会） 沼尻 宗子 （町田市立学校に在籍する児童又は生徒の保護者） 竹下 幸子 （町田市立学校に在籍する児童又は生徒の保護者）
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	風張 真由美 （町田市医師会） 山崎 進二 （東京都町田市歯科医師会） 前田 佳香 （市内小学校栄養教諭） 浦嶋 澄香 （市内高等学校教諭） 山下 幸光 （市内農業者） 松井 大輔 （町田商工会議所） 山口 晃 （東京都町田食品衛生協会） 原 慶子 （町田地域活動栄養士会）
	事務局	
配付資料	・ 次第 ・ 【資料 1】 2025 年度第 1 回町田市保健所運営協議会報告 ・ 【資料 2-1】 まちだ健康づくり推進プラン 24-31 食育推進の体系図 ・ 【資料 2-2】 食育進捗調査シート（2024 年度各課取組一覧） ・ 【資料 2-3】 食育進捗調査シート（2024 年度各課取組まとめ） ・ 【資料 3】 食育進捗調査シート（2024 年度町田市食育推進委員会取組一覧） ・ 【資料 4】 食育報告書（2024 年度） ・ 【資料 5】 連携協定プレスリリース資料 ・ 【資料 6-1】 食育すごろく 幼児版（案） ・ 【資料 6-2】 まちだ食育すごろく（案） ・ 【資料 6-3】 コマ付き改訂サイコロ（案） ・ 2025 年度町田市食育推進委員会 委員名簿 ・ 町田市食育推進委員会設置要綱 ・ まちだ健康づくり推進プラン 24-31（閲覧用）	

検 討 経 過

1 開 会

2 保健所長挨拶

3 委員自己紹介

4 報告

(1) 2025 年度第 1 回町田市保健所運営協議会報告について【資料 1】

委員長：

報告事項 (1) 2025 年度第 1 回町田市保健所運営協議会報告について事務局より報告をお願いする。

事務局：

今年度の町田市保健所運営協議会は 8 月 5 日 19 時から行われ、議事は、『「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」の進捗について』と、『2024 年度事業実績報告及び 2025 年度事業計画と進捗状況』の 2 点であった。この 2 点について、資料 1 のとおり報告した。

【資料 1】について。

目標 1-3 食で健康を支えるまち

施策 (1) 「望ましい栄養・食生活の推進」については、2024 年度は分野横断的な取組として、男女平等推進センターと連携し、父親の育児参加、男女平等という視点も取り入れた内容で「お父さんのための離乳食講習会」を 2 回実施した。参加した父親からは「自分も離乳食を作れるようになりたい」などの感想があった。

食体験事業については、2024 年度は、テーマを「まちだのエコ食ツアー～町田の食×環境をまるごといただく 1 日～」と題して、収穫体験、農業生産者の講話、市のごみ処理施設（バイオエネルギーセンター）の見学、食品ロスの講話、調理実習と盛りだくさんの内容で様々な食について考える機会を設けた。

目標 1-3 施策 (2) 「食を通じて地域とつながるための支援」では、町田市食育ボランティアを活用した共食の推進や「まちだすいとん」を活用した地産地消の推進などについて取り組んでいる。2024 年度は、地域等からの依頼を受けて、「まちだすいとん」や「パックスッキング」の調理実習などを実施し、「一緒に作って食べる」ことで「共食」の大切さを伝えた。

目標 1-3 施策 (3) 「食に関する環境の整備」では、市民が食育に関心をもってもらうための取組として、スーパーでの減塩レシピの配布や公共交通機関や商業施設等のデジタルサイネージ、スポーツチームの電光掲示板を活用した発信を行った。さらに市立総合体育館内と市民ホール内のレストランと連携し、減塩メニューや野菜たっぷりメニューの提供や、その他に、市の SNS（X とインスタグラム）での発信を 360 回行った。

市民の多様なライフスタイルに応じた食育を推進するためには、引き続き、組織や分野の垣根を超えた分野横断的な取組や民間企業等と連携した取組を行っていく。

この中で、調所委員長より、市内レストランと連携した減塩メニューや野菜たっぷりメニューの提供について、

「なぜ、提供が期間限定なのか」「もっと別のところでもできないのか」「連携は市からの働きかけによるものなのか」などの質問があった。

期間限定での実施については、コスト面や人員体制などの理由や、期間を設けることで、市民の方にも興味を持っていただきやすいというメリットもあり、減塩や野菜摂取について考えるきっかけ作りの普及啓発の取組と考えている。実施にあたっては、協力を得やすい市の関連施設にまず声をかけて開始していると答えた。飲食店と連携した取組については、他自治体の取組事例も参考にしながら、今後、検討していきたいと思う。

保健所運営協議会に本委員会の代表としてご出席いただいた調所委員長から、補足説明などお願いしたい。

説明は以上。

委員長：

運営協議会では他の委員から意見があったわけではないが、健康な街を作るといった環境整備の点で、食育がどのくらいできているのか、頑張ってもらいたいということで質問をさせていただいた。

みなさまからの質問はないか。

(なし)

(2) 2024 年度の食育取り組み報告について【資料 2-1～3】【資料 3】【資料 4】

委員長：

では報告事項 (2) 2024 年度食育の取り組み報告について事務局より報告をお願いします。

事務局：

【資料 2-1】の食育推進の体系図について説明。

こちらは、食育の施策の方向性と市で行っている主な食育事業をわかりやすく図にしたものになる。食育推進の方向性を位置づけている「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」は、市町村健康増進計画である「まちだ健康づくり推進プラン」と市町村食育推進計画である「町田市食育推進計画」、市町村自殺対策計画である「町田市自殺対策計画」の 3 つの計画を一体化して策定したため、食育ページの記載内容だけでは食育関連の取組内容がわかりにくいため、「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」の食育に記載がない事業についても、食育の、どの施策の方向性に紐づいているかがわかるように体系図を作成した。

【資料 2-2】食育推進進捗調査シート (2024 年度各課取組一覧) について。こちらのシートは、本委員会の下部組織である「町田市食育推進庁内連絡会」の委員となっている課が、昨年度行った取組をまとめたものになる。2024 年度から「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」の運用が始まったので、このシートは新書式となっている。取組の具体的内容については、後ほどご覧いただきたい。

【資料 2-3】食育進捗調査シート (2024 年度各課取組まとめ) について。こちらは先ほどの進捗調査シートをまとめたものとなる。

達成状況については、市民意識調査での結果となるため、中間報告、最終報告以外は出せない。年度の報告としては、食育進捗調査シートの取組状況をまとめた形での報告となる。

結果については、担当課 15 部署で 68 件の取組があった。

(ア) 評価指標に関する事業数は、1 つの取組の中で、2 つ以上の指標にまたがった取組をしているものがあるため、件数のカウントには重複がある。評価指標に関する取組では、「食育に関心がある人の割合」を増やす取組が最も多くあった。

(イ) 施策の取組と評価については、概ね予定通り実施できており、取組内容としては、ライフステージに応じた食育の取組が多くあった。

(ウ) のライフステージ別でみると、色々な年代に向けたアプローチができていると思われ。

(エ) 他課や企業等との連携した取組は、取組数のうち 40%は何かしら連携した取組を行っていた。

以上を踏まえた考察としては資料に記載のとおりである、

これらの内容については、先日、開催した食育推進庁内連絡会でも情報交換を行ったので、今後の取組に生かしていきたいと思う。

【資料 3】進捗調査シート (町田食育推進委員会取組一覧) について。こちらは、委員の皆さまからご提出いただいた取組をまとめたものである。ぜひ、皆さまの取組についても、今後も報告いただきたい。

【資料 4】の食育報告書 (2024 年度) について。こちらは各課の取組報告から抜粋したものになる。進捗調査シートの中から他課と多く連携を行っており、事務局がかかわったものを中心に、お父さんのための離乳食講習会、まちだすいとん、食体験事業、朝食レシピコンテストの 4 つをあげた。以下資料に記載のとおり。

委員長：

これまでの報告で質問等はあるか。

私から質問がある。進捗調査シートについて、2024 年度各課の取り組みとあるが、今後どのように調査していくということでよいか。目標値はこのままか。

事務局：

今後も年度ごとに追記していくので変化がわかるようにしていく。

この計画は2024年度からの8年計画で、中間報告として2027年に市民意識調査を行う予定になっている。目標値については中間目標値があるので、2027年にはこの目標を達成できているかをみる。

(3) 東京家政学院大学と町田市との食育推進に関する連携協定について【資料5】

委員長：

報告事項(3) 東京家政学院大学と町田市との食育推進に関する連携協定について報告をお願いします。

事務局：

この度、町田市と東京家政学院大学は、「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」で掲げる『食で健康を支えるまち』を実現するために、8月1日に連携協定を締結した。

この協定の目的は資料に記載の通り。

今回の協定締結に至った経緯は、市の事業のひとつである市民参加型事業評価という事業で、評価人から課題として「若い世代への食育」があげられ、その解決策として、「高校や大学と連携」との意見をいただき、食育推進委員会の委員である東京家政学院大学の米澤委員にご相談したところ、協定締結の運びとなった。

連携による主な取り組みと実施予定事業については資料に記載のとおりである。

取組については、東京家政学院大学の米澤委員にも説明いただければと思う。

報告は以上。

委員：

大学として実際にやらせていただいていることは「まちだすいとん」を学生食堂で提供することであり、前期に学生食堂の委託会社のシダックスの協力のもと、30食限定で提供し、反響はよかった。後期は9月に30食限定で提供予定である。また、共学化したことで料理サークルができ、11月9日(日)の学祭でも提供予定である。また卒業研究でも近隣の子どもたちに食育講座を行っており、そちらでも「まちだすいとん」を提供する予定になっている。

委員長：

ただ今の報告で質問等はないか。(なし)

今年から男子学生が入ったということであるが、男子学生の朝食について大学側から発信していけると思うので今後を楽しみにしている。

5 議事

委員長：

これより議事に入る。事務局より説明をお願いします。

(1) 今後の食育の取り組みについて【資料2-2~3】【資料3】

事務局：

【資料2-2】食育進捗調査シート(2024年度各課取組)について。2024年度の各課の取組から、課題や方向性を踏まえた今後の取組について、食育推進庁内連絡会にて共有した。他に昨年度から、中学校給食センターが開始されたことで、新たに給食センターと連携した取組の報告もあった。中学校給食センターの施設コンセプトが「食を通じた地域みんなの健康づくり拠点」であり、今後も連携した取組が増えると思われる。

【資料2-2】食育進捗調査シート(2024年度各課取組)の内容から、今後の町田市の食育推進の取組について意見や助言をいただければと思う。なお、資料3は委員の皆さまからの取組報告になる。

説明は以上。

委員長：

事務局からの報告を踏まえて、町田市の食育を推進していくうえで、効果的な方策や課題について委員の皆様からご意見や提案を伺いたい。

委員：

卒業研究で地域の子どもたちに対しての食育の取り組みと、大学生の食事摂取状況が悪化しているのを、併せて授業以外でも食育に取り組めるように「まちだすいとん」を進めていきたいと思っている。

委員：

野菜作りをしているが、暑さで枯れてしまい、唯一オクラだけが成長している。今までは採れた野菜を園の給食で出すと子どもたちはよく食べてくれたが、今年は野菜嫌いの子どもが多く、採れた野菜を家庭に持ち帰ってもらい、家族と一緒に食べてもらうことにした。保護者から「食べるきっかけになる」との声が寄せられた、また、5歳児はらっきょうや梅干し作りも行っている。らっきょうはカレーパーティーで添える。今年は米も作っているの、収穫できたらごはんには梅干しを入れたおにぎりなども考えている。他に卒園児が来園した際にレシピコンテストの話が出て、「地場産の野菜はどこで買えるんだろう」、「家のプランターで育てている野菜は“町田産”といえるのか」などの声を聞くと、（取り組みが）広がっていると感じる。園では食事に関しては家庭との連絡帳でやり取りはしているが、どのくらいの量の野菜を食べているかまでは把握できていない。みんなで食べると食が進むので、園ではオクラを刻んでお吸い物にしたりして、少しでも野菜を食べさせるようにしている。

委員：

市との連携はないが、園独自では、夏野菜を育て、ピザ窯で焼いて食べている。自分で育てたり、収穫をしたり等栽培に携わると食べてくれることがある。本園でも暑さでブロッコリーが全滅してしまった。野菜に虫がつくので虫とり（駆除の体験）も行いたい、熱中症の危険がありそれできない。連携先の農家にお話ししたいたりもしているが、農家さんの高齢化やご自身の畑の作業を早起きをしてやっているの、午前中に幼稚園に来てもらうのも難しい。地域の農家と連携できる道筋みたいなものを行政に果たしていただけるとありがたい。園では魚をさばいてもらって、食べる体験をさせている。毎年、年長になると新潟の佐渡に合宿に行き、必ず収穫したイカを食べていたが、今年は暑さでイカの水揚げがなく、代わりはマグロだった。刺身で食べさせることはできなかった。今後、地球環境の変化も食育にかかわってくると思う。

委員：

小学校では給食の無償化が始まったので、保護者の負担は減ったと思われるが、米の値上がりをはじめ、食材の値上がり等で運営が大変な中、栄養士は栄養価を充足させるために頑張っている。各学校には食育の年間計画があるので、それに基づいて行っている。6月の食育月間では箸の持ち方、汁物は右、ごはんは左などからスタートして、栄養教諭が各クラスに入って「食べることは生きることにつながる」といった指導を行った。また、校長会でも話がでていたが、朝食からウーバーイーツや、外食でモーニングを食べてから登校するといった子どもがいるなど、様々な家庭環境があるなかで、各家庭において、子どもたちに「食べるということを大事にしていく」ということを教えていくことが大きな課題と感じている。

委員：

中学校でも給食が始まった。中学生には自分で食事を選択する力を養ってほしいと考えている。大人は健康診断で血液検査があり自分の身体の状態がわかるが、子どもは自分の食べたものの体への影響がわからないまま大人になってしまうのではないかと心配している。嗜好だけでなく、食べたものが自分の身体を作っている、必要だから取り入れるといった視点でも考えられるように教育をしていきたい。

委員：

JA 町田市では小学校や中学校の給食で使用する野菜の確保が一番の課題となっている。理由は農家さんの高齢化や相続等で農地の縮小なども影響し、生産量も右肩下がりになっていることである。そのゲストティーチャーとして各学校に出向いて田植えや稲刈りを行っている。

委員長：

生産量が減っているということだが、需要は学校給食が始まったということで増えているのか。

委員：

予定していた注文数の3倍である。それを確保するために、予定していた生産者さん以外にも声掛けをして何とか出荷できている。

委員：

自施設の話であるが、今年はお試して職員の子どもを対象として「椿こどもクラブ」といった食育のクラブをたちあげた。施設の屋上とホールを使用して口腔ケアやプランター栽培を行っている。日曜開催で職員が仕事している間に子どもに食育を行っていて30人ほど集まっていて評判がよい。見直す点もあるが栄養士の仕事も充実している。

相原駅前の月1回の日曜朝市でも情報の公開や普及ができればよいと思う。

また、自施設では高卒職員が多いが、朝食を食べていない人が多い。理由は片付けるのが面倒なので作らない、だから食べないといったことである。片付けが楽といったことも重要なのかなと思う。

委員：

観光コンベンションでは連携・繋ぐといったことが役割だと思っている。市内の事業者や、鉄道、飲食店と連携している。観光なので、イベントや、文化施設、公園、お店に来てもらうことがメインになってくるが、「食」も重要な資源である。インバウンドの方々の目的は「食」「自然」「伝統文化」ということであるので、「シルクメロン」の販売をさせていただいているが生産量が課題である。また、委員の方からは「町田らしさ」がないという意見もある。町田名産品の中には、材料を他から仕入れて、町田で製造したものが町田産なのか？ということで、今までであったものから、品目数が減っている。これからの課題として「町田らしさ」のある商品や食材を皆様にPRする必要があると思っている。例えば目玉となる食材のツアーなどの企画もできるので、何か情報があれば教えていただきたい。

委員長：

町田市では現在「推し」のツアーはあるのか

委員：

ブルーベリー摘みツアーがある。シルクメロンがツアーになればいいのだが、生産量の課題があり難しい。

委員：

「食事とは生きることにつながる」といったことで、学校教育には限界があるように思う。PTAでは独自に食育セミナーや夏休みに収穫体験を行っている。「食育セミナー」は保護者向けに外部の講師を招いて「子どもたちの血糖値」に視点を当てたセミナーを行った。セミナーに参加した保護者の気づきや意識が変わることで、それぞれの家庭でも少しずつ会話や食事作りにも変化が出てくるのではないか。

町田市の取り組みで良いなと思ったものがあり、「町田市の給食では化学調味料を使わないようにしている」あった。ただ、社会科見学で「味の素」に行き、一人1個味の素をもらってくる。複雑な気持ちになるので、学校でも連携をとっていただくと一貫性があってよいと思う。

委員：

中学校も給食が始まったということで、給食を食べることが子どもたちへの良い食事の習慣の見直しにつながってくれたらよいと期待している。給食センターを拠点とした地域への働きか

けが行われていくと思うが、自校給食と給食センターとの差が出ないように配慮をしていただきたい。

小中学校はまだ保護者の力が及ぶ範囲だが、課題になっている若い世代の高校生や大学生は自分で好きなものを好きな時にすぐには買える状況にあるので、食事のとり方は偏りがちだと思われる。

小学校の夏休みの宿題の朝食レシピの作成について、夏野菜を使ったレシピとなるが、特徴のある野菜が少ないので、町田らしさを考えるには難しい。夏休みの宿題なので夏野菜が中心となるのは仕方ないが、違う時期にもやってみたらレシピの数も増えるのではないだろうか。

農地に関して、使っていない農地、耕作していない土地もたくさんあるのでそういった土地を町田市として利用する方法を考えてほしいと思う。

委員長：

委員の皆様の話を読み、なにか意見はないか。

食育というのは行政だけでなく皆様が中心になってやってくものであり、計画を立てても状況の変化についていかなければならないものでもある。特に米や野菜が当たり前にある

と思っていても、その土台が動いてくるとそれに合わせて食育もやっていかなければならないので、細かな施策が必要となってくる。

皆さまの現場でやっていく中で、困ったことがあったときは事務局に相談していただきたい。

議事（2）まちだすごろく 【資料 6-1～3】

委員長：事務局より説明する。

事務局：

【資料 6-1, 6-2, 6-3】について。

簡単にすごろくの作成に至った経緯を説明する。元々事務局の保健予防課はイベント等で配る食育啓発グッズとして食育推進キャラクター「まち☆ベジーズ」のペーパークラフトのサイコロの作成を予定していた。市民の方々から市の事業に関して評価をいただく市民参加型事業評価という事業の評価人から、保健予防課の食育推進キャラクター「まち☆ベジーズ」の効果的な活用をしたほうがよいと指摘を受けた。まちだ健康づくりプラン 24-31 では食育推進には関係団体との連携が必要と明文化されている。この実情を統合し、食育推進キャラクターのサイコロを活用し、庁内各課の食に関連する内容を書いた食育すごろくを作成し、市の食に関して PR を行いながら、食の知識をつけてもらえたらと進めてきた。

昨年度、市の食育推進庁内連絡会と当委員会ですごろくの素案を出し、委員の皆様から意見をいただき、具体的に反映させて作成した資料について説明する。

【資料 6-1】は幼児版すごろくである。こちらは食に関するクイズの入った一般的なすごろくである。

【資料 6-2】は低学年以降を想定したすごろくである。こちらは、マス目にある指示に従い、主食（黄）・主菜（赤）・副菜（緑）・ラッキー（青・こちらは普通は 3 色栄養にはない色だが水分や果物などより摂った方がよいものとして入れている）の 4 種の料理カードを集めていき、栄養バランスのよい食事を作る。栄養バランスのよい組み合わせをポイント化しているので集めたカードの最終ポイントが高かった人が勝ちとなる。このすごろくは早くゴールしてもポイントが低ければ 1 番にはなれない。そして庁内各課の食に関わるまちだの PR になるようなマス目を入れている。カードの集め方がよくわからない子にむけて、シートの上に載せてカード集めれば点数がわかるシートも作成している。空白マスを作っているので、マス目はいろいろアレンジできる。

どちらも作成後、家庭や係内で試し、修正したものを庁内各課に確認し、更に修正したものである。

【資料 6-3】はサイコロの改訂版の案である。現在も第一弾を活用中だが、改訂版は出目のキャラクターをカラーの丸で囲んだり、幼児にもわかりやすいように数字の文字を記載したり、まち☆ベジーズのコマを作成するなど修正をしている。

こちらに関してご意見いただければと思う。

委員長：

事務局より説明があった「食育すごろく」についてご質問やお気づきの点、また今後の活用についてご意見・ご提案などがあったらお願いしたい。

委員：

最終的にはどんな形で配布するのか？どこで配布するのか？教えてほしい。

ダウンロードだけしかできないなら、「食育だぞ」と思ってダウンロードして遊ぶのでは広まらないと思った。それよりも遊んでいたら実は「食育だった」という流れがよいのではないか。配布物はCSR活動をやっていく中でも非常に人気がある。ポケットモンスターのマンホールの蓋のレプリカを置くと、お子さんが非常によってきて写真を撮っていく。すごろくも人を集める一つになる可能性があると思うので、是非、我々にも配布をさせていただければありがたい。販売しているような物になると価格が高いが、それなりのものができるとお持ち帰りになると思う。

事務局：

想定しているのは、完成したものを市の方で印刷して子どもセンター、学童に置いていただく。これから広めていきたいので、幼稚園・保育園や学校でどんどん活用していただけたらいいと考えている。サイコロは多めに印刷するので、イベント等々での配布や協力いただけたところがあったら設置して配布いただけたらありがたい。

委員：

これを最初に見たときに「おもしろそう」と思った。若い先生たちは、オクラを育ててその花を初めて見たという人もいるみたいなので、そういうこともここには含まれているので、先生たちも、子どもたちもわかっていいと思う。これを引き延ばして使ってみようと思った。

委員：

このアナウンスはあるのか？例えば、幼稚園協会や保育園協会などに対して、これから町田市でアナウンスするのか？どの程度の提供があるのか？ダウンロードは可能か？ダウンロードの二次元コードを付けてもらったりできるのか？

実物での提供はあるか。

事務局：

いろいろなところで使用していただけるように、アナウンスしていきたい。

サイコロだけは、印刷してお渡しできるが、すごろく自体は、厚紙で印刷することは想定していない。活用してもらえる子どもセンターなどには印刷・パウチまで考えている。

ダウンロードはできるようにする。ご案内するときには、ダウンロード先と二次元コードを付けて周知する。時期は正式には決まっていないが、この委員会でご承認いただき修正がなければ、今年度中には市サイトからダウンロードできるようにする。サイコロは、今年度中に印刷するので、委員の幼稚園協会・保育園協会の先生にご活用いただけるようであれば、先生方にお渡しするので活用していただきたい。

委員：

大学で料理教室を9月10月に実施する。

9月は「まちだすいとん」、10月は「バランスよく食べる」ということで何かおもしろいこと学生が考えていたので、これを使わせてもらえたらうれしい。

事務局：

先生（家政学院大）に使っていただいて、使用のご意見いただくこともよいと思う。

委員：

終わった後に振り返りみたいな形で、例えば「町田の名産品がどこで購入できるか」とか、「まちベジーズは今こんなものがあるよ」というようなプチ情報を、映像のコマーシャルのようなも

のが入るとよいのではないか。予算もあると思うが、これで終わりではなくそこから何か発展できるようなもう一段階何かがあるといいのかなと思った。

委員：

小学校・中学校はタブレットを一人一台持っている。こういうデータをMEN（町田エディケーションネットワーク）にいられていただくことで、子どもたちが自由な時に使えるようになる。まずは紙からだと思うが、ゆくゆくはボタンで6つのペジーズが動くようなアプリになるとよりよいと思う。

事務局：

中学生にも使ってもらえそうか？

委員：

紙ではちょっと難しいが、ゲーム感覚でできるようなプチ情報があればよいと思う。

委員長：

議事は以上となる。進行を事務局にお返しする。

事務局：

次第6に移る。事務局から2点連絡事項をお伝えする。

1点目、本日の謝礼につきましては、公務の方、及び辞退されている方を除き、後日、指定の口座に振り込みをさせていただきます。

2点目、次回の町田市食育推進委員会の開催は、2026年1月下旬から2月上旬ころを予定している。引き続きどうぞよろしくお願いいたしたい。

連絡事項は以上。

— 閉会 —